

2004年(平成16年)7月発行(共済版) 発行

出版産業のシステムとマーケティング情報

文化通信 **bBB**

Book & Business

号外の記事

● 編集・POSデータ活用システム	● POSデータ活用
● 東京の「書店」	● 業界標準「本の発行」
● 「売れなかった」事業家	● 業界標準「本の発行」
● 業界標準「本の発行」	● 業界標準「本の発行」

恭文堂書店(東京・目黒)は03年6月に光和コンピューターの書店システム「Super Book Shop(SBS)」を導入した。

**SUPER BOOK SHOP™**

**KYOBUNDO**  
恭文堂書店

恭文堂書店は、昭和2年に当地で開店いたしました。当時はわずか数坪で細々と営業していたと聞きます。その後は、地域社会の変化とともに、より愛されるお店として努力してまいりました。そして、これからも、地域の皆様によりいっそう喜んでいただけるような店作りをしていきたいと考えております。

**(株)恭文堂書店**

**駅前本店**  
住所 〒152-0004 東京都目黒区鷹番3-3-19  
TEL 03-3712-4049  
FAX 03-5723-8090  
営業時間  
(平日)10:30～22:30 (土曜)10:30～22:00  
(日曜日)11:00～21:30

**コミックラフト店(コミックはこちらです)**  
住所 〒152-0004 東京都目黒区鷹番3-3-3  
TEL & FAX 03-5721-9229  
営業時間  
(平日)12:00～21:00 (日曜日)12:00～20:00

簡単に操作できる業務システムは、店舗の作業効率をアップさせるほか経営の効率をあげることとなります。インターネットを活用し、店舗のコンピュータシステム投資を最小にする事により最大の経営効果が達成できます。

豊富な実績をもとに、書店が必要とするネットワークをサポートし、これからの書店が求めるすべてのニーズを充たすシステムとサービスです。

・全店舗の販売実績  
・在庫情報 等

・商品情報  
・経営の情報 等

**SUPER BOOK SHOPの目的**

1. 全単品管理での棚管理効率のアップ  
150万点以上の単品データベースを管理し、経営効率をアップするための指針を示します。また、担当者の品揃えを効率良く行う助けとなります。
2. 発注・定期改正・返品のパックアップ  
店舗の担当者の業務の効率をあげます。誰にでも簡単に行える業務システムは、店舗の作業効率をアップします。
3. 発注・定期改正の自動化  
本部で発注点等での様々な自動発注設定を、全店舗について店舗タイプ別に自由に行えます。出版社・返品期限・分類で、自動発注を開始停止ができます。多店舗展開・本部一括発注を可能にします。
4. インターネットによるWEB-POS及び本部システム構築  
WEB-POS及びイントラネット本部システムは、店舗からインターネットで分析業務を行うことを可能にします。店舗のコンピュータシステム投資を最小にし、最大の経営効果を達成します。
5. 取扱店・出版社とのデータ交換  
複数の取扱店とのデータ交換、出版社へのPOSデータ送信等、書店が必要とするネットワークをサポートします。
6. あらゆる消費者サービスをサポート  
タッチパネルシステム・インターネット通販システム・ホームページでの在庫データ公開等、書店が必要とする消費者へのサービスをサポートします。

**書店業務全般を網羅したシステムを導入**

恭文堂書店は東急東横線の学芸大学駅前に本店80坪とコミック専門店を営んでいる。メイン取次は栗田出版販売で、そのほか日販、日教販、地図教販、日本洋書販売(洋販)と取引がある。本店は2フロアで年商は約4億円。パソコンサーバー1台、クライアントパソコン3台、シャープ製POSレジ2台(各フロア1台)を導入し、有線LANで結んでいる。

導入するシステムとしては、イディー、三菱電機インフォメーションシステムズに次いで3世代目になる。SBSは全単品管理、イントラネットによる本部・店舗管理、取次とのオンライン受発注、PLU対応など、書店業務全般を網羅したシステムで、04年6月から雑誌コードに導入されたアドオンコードにも対応している。

**店内全商品の単品管理が可能になった**

また、今回のシステム導入によって、店内全商品の単品管理が可能になった。これまでのISBNコード2段JAN(書籍、ムック)、共通雑誌コード(雑誌)、JANコード(文具等)に加え、新定期刊行物コードのアドオンに対応したことで、これまで読み取れなかった洋書のバーコードも可読になった。

現在、洋書の商品マスタはないが、入荷検品時に価格情報を入力しており、顧客の問合せにもISBNコードがわかれば在庫確認が出来る。また、「ハリー・ポッター」のような売れ筋は書名などをマスタ登録している。今後、取引先の洋販が電子データによる書誌マスタの提供を始めれば、さらに管理は完璧になる。

SBSには各種のデータ分析メニューがあるが、理論在庫数・金額と売上冊数・金額から商品回転率を確認したり、取次別に当月の仕入金額、返品金額、その時点での実仕入額を出して、予算管理に役立てるなど、経営管理にもデータを活用している。

単品売上データは過去15ヶ月間さかのぼれるので、専門書など回転率が低い商品の動きも把握できる。また、マスタの変更が容易になったため、出版社マスタに電話番号を入れて客注対応時の手間を減らしたり、買切や地方・小出版流通センター扱いといった備考情報を入れて活用している。

**コストはほとんどかからない**

取次各社とはオンライン受発注を行っているが、各社との全銀行手順による通信は光和コンピューターが代行しており、同社のサーバーからFTP転送で納品、新刊データをダウンロードしている。光和との間はISDN回線によるインターネットですむため、コストはほとんどかからない。

また、栗田出版販売は取次5社協同の出版共同流通俵に参加しているため、雑誌は無伝票での返品処理を行っている。栗田から送信される返品データでマスタを更新するシステムを組み込んだため、自店で返品雑誌をスキャンするの必要もない。「ここは大変なコスト削減になった」(田中店長)という。

システム運用には通信費や保守料がかかるが、同店は中小規模書店の協会会社Net21に参加しており、光和コンピューターに対しては自店の取次オンライン代行費、販売データ送信費のほか、Net21のASPシステム運営費も合わせて月額8万円前後を支払っている。保守料は年間30万円だが、土日も含めて「呼べば30分以内に来てもらえるし、機器とシステム構成や保守の履歴も持っているのだから、対応は良い」(田中店長)という。